

# 向こう三軒両隣

有明台小学校区コミュニティ協議会ニュース

第5号  
2012年  
3月30日

- 東日本大震災の教訓「新潟大 田村教授」 ..... 2
- 新潟市立小中学校の適正配置 ..... 4・5
- あんなとき、こんなときフォトボックス ..... 6
- たつまキッズ実施予定日 ..... 7
- 教育コーディネーターのこの一年 ..... 8

▼3面参照



「降雨体験」

「雨ニティ号」



「起震車体験」



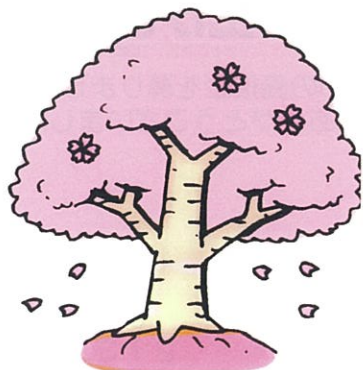
「先生、ハイパーレスキュー隊入隊！」

東北がんばれ！2年目となる学校との防災合同訓練2011

一年の希望は春から  
季節は巡り、  
また春がやってきます。

東日本大震災の発生から1年。あの衝撃の一日からもう一年が経ちます。被災地に植えられた桜が津波の大きさを物語っています。その桜も今年こそ芽吹き少しでも被災者にあたかな気持ち広がればと願っています。

今回の震災では、日本の家族や地域社会といった絆が残っていたからこそ、このような大災害の中でも気持ち強く持ち、秩序正しく、平静を保つことができたのでは。この姿勢は、世界中の人々から称賛され、多くの励みや支援が寄せられたことは、皆さんもご承知かと思えます。日本人の底力はまだまだ失われていません。私たちも共に一歩前進できるよう努めていきたいと思っています。



# ありしように応援隊！

◆活動報告◆



4年生スポーツテスト補助



2年生町探検引率補助



全校クリーン作戦引率補助



1,2年生水泳授業、サマースクール水泳補助



マラソン練習補助



3,4年生なかよしウォーク補助



6年合奏、5年合唱指導補助



3年生大根掘り引率補助



5,6年生ミシン掛け指導補助



卒業式ピアノ伴奏



保護者お礼給食会



## 有明台小学校の子どもたちと一緒に応援していきましょう！

有明台小学校は昨年度から、新潟市教育委員会の「地域と学校パートナーシップ事業」に取り組んでいます。この事業は、学校が今まで以上に地域に開かれ、地域と共に歩むことができるように、地域教育コーディネーターを配置しています。コーディネーターが中心となり、ボランティアを募集し「**学校が元気に！地域が元気に！そして子どもが元気に！**」なるよう、さまざまな支援活動を行っています。昨年度は延べ120名の方からボランティアに参加していただきました。ご協力ありがとうございました。今年も引き続き、学校と地域をつなぐ、いろいろな活動に取り組んでおります。

（お問い合わせ） 地域教育コーディネーター ☎ 090-5556-6221

「まだまだ少ない津波避難ビル」東日本大震災で大きな被害をもたらした津波と同じ規模のものが新潟県内でも起きた場合を想定し、避難する建物として、「津波避難ビル」を新たに指定する動きが広がり、この数が増えていることが分かりました。

新潟市では、これまで13の学校を津波の避難場所に指定していましたが、震災後見直しを進め、信濃川沿いの万代地区にある5つのホテルを新たに津波避難ビルに指定しました。（その後も増えているようです）

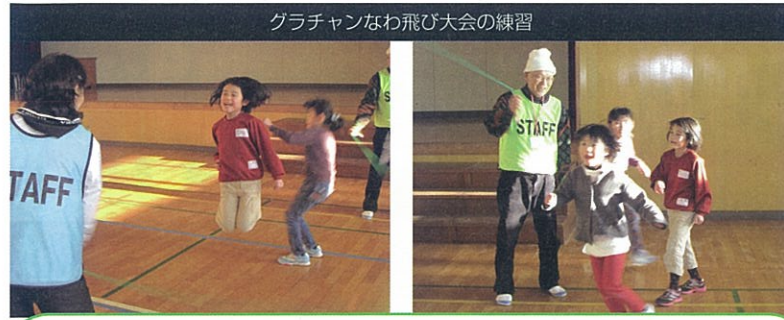
しかしながら、太平洋岸の各県の危機感（関東圏から四国地方では各県で100箇所以上に比べて遠く、中央自治協においても議題に上がり、各コミ協が本年度から調査に入っています。協力下さい。曾我）

編集三昧

お知らせ  
information  
今年の防災訓練は  
6月16日(土)です。

学校の授業となり、登校日となります。  
(詳細は後日お知らせします)





グラチャンなわ飛び大会の練習

### 学んで楽しむ「たつまキッズ」



これは番外!  
四校ドッチボール大会有小優勝!  
(有小・浜小・関小・鏡小)



おり紙講習会

## 前向きな気持ちを起こさせる 地域の絆

### 「たつまキッズ」実施予定日

平成24年4月～7月  
●水曜日 15:00～16:30  
(市小研の日は14:10～16:00)  
●土曜日 (9:00～11:45)

4月18日(水)	6月20日(水)
25日(水)	23日(土)
5月9日(水)	27日(水)
16日(水)	30日(土)
23日(水)	7月4日(水)
30日(水)	7日(土)
6月2日(土)	11日(水)
6日(水)	18日(水)
13日(水)	



「六階節総踊り」



「サークルによる民謡」



「新舞踊」



「子どものタル囃子」

### 地域福祉まつり

## 「歳末ふれあいお楽しみ会」開催

12月4日(日)、有明台小学校において中央区社会福祉協議会の「歳末たすけあい募金の配分事業」の後援のもと、歳末ふれあいお楽しみ会が開催された。  
当日は、校区住民であるジュニアからシニア350名余の参加者が集い、地域で活動しているサークルが民謡、新舞踊、フラダンスなどを披露。子ども広場では、囲碁や将棋、折り紙等で興じる児童で賑わった。昼食時間では餅つき大会、締めくくりはジャンケン大会で盛り上がりました。

### 東日本大震災の教訓

## あの日から1年 「忘れないために」

2010年有明台校区防災訓練にご講演いただいた、  
田村圭子・新潟大教授のインタビュー記事が朝日新聞(2012年3月6日朝刊)に掲載されました。ご紹介いたします。

## 長期的な避難生活を想像して

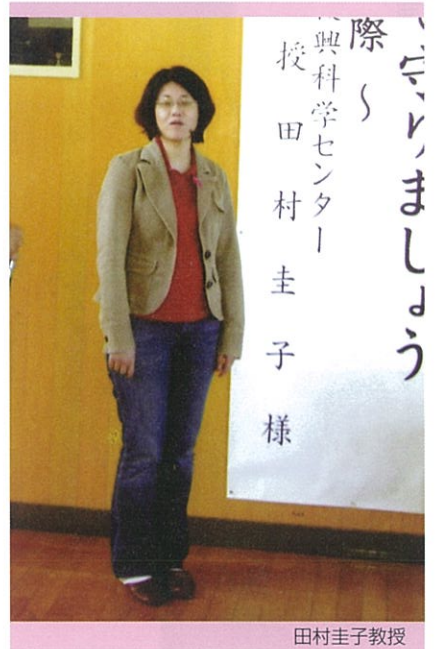
「震災後」の1年を過ごし、私たちは何を考えるべきなのでしょう。それぞれの分野で震災を見つめ、動いた人たちに聞きました。  
—3・11を迎えます。  
自分が暮らす場所は本当に安全か。何が起きたら、どう安全を確保するのか。家族や地域で考える日にしてほしいですね。話し合っ、備えて、心配なら行政を巻き込む。「安全点検の日」にしたらいののではないのでしょうか。  
—大震災の教訓は何ですか。  
まず、広域避難の問題。準備がなく、行政の方針も示されなかったため、多くの人が何方所も経由

## 普段から避難路を考えておく

新潟県民は過去の災害で、つらい思いをしている人を助ける知恵を蓄積しています。今回の経験も生かして、自分たちが広域避難をした場合に備える時です。新潟は防災先進県。地域の防災力を高める「応用問題」に、しっかり答えを出してほしい。  
—市民の心構えは。  
長期的な避難生活をひとつとせず、想像することです。地域の誰と一緒に避難するか。その後、どの親戚の家に行くか。子どもの年齢によっても判断は変わるでしょう。地域、家族、個人で心づもりをしておくことが大事です。

—お年寄りなど要援護者の救護も課題ですね。  
要援護者は行動や判断情報取得に時間がかかり、命の危険にさらされやすい。東日本大震災では多くの避難所が暗くて寒く、食べ物、飲み水も満足にない。要援護者が弱っていった。食べ物、飲み水、毛布が要援護者に行き渡る備蓄の知恵を、改めて地域で絞らないといけません。  
—避難路の考え方は?  
先日、上越市で津波対策を練っている町内会に呼ばれたとき「避難路を考えよう」と言いました。  
平時に歩くルートで、この角を曲がって…なんてあり得ない。他人の敷地を横切った方が速いのです。「この畑を通りますよ」とか、約束しておくといふですね。  
—実践的な避難訓練も大事ですね。  
重要なのは、訓練の計画を話し合う段階なのです。

—何をもち出せばいいのでしょうか。  
地域の避難場所に備蓄できればよいけれど、十分な量は無理でしょう。一つのリュックサックに自分や家族用に合った食べ物と水、薬、眼鏡や衣類を詰めておく。津波が起きたら一目散りに山の上に行くのだから、重たい物を持つのはナシです。震災1年は、そうした身の回りの備えを見直す機会だと思います。  
(聞き手・吉武祐)



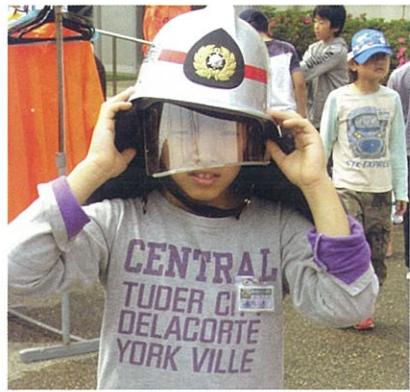
田村圭子教授

## 東日本大震災 救援募金 ご協力感谢您申し上げます。

有明台校区自主防災会では、昨年、回覧板を回し「東日本大震災」支援のための義援金を募りましたところ、皆さまから756,000円の温かい義援金が寄せられました。ほんとうにありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

この義援金は日本赤十字社を通して被災地に届けられました。以下、各自治・町内会が募った義援金の内訳です。

・関屋大川前一区自治会	214,000円	・弥生有明大橋町町内会	45,500円
・関屋大川前二区町内会	47,000円	・堀割町町内会	91,500円
・関屋大川前三区町内会	51,500円	・文京町自治会	213,000円
・関屋大川前四区自治会	92,500円	・関屋大川前市営住宅自治会	1,000円



「ワーイ！ボク消防士だー」



「避難訓練、おちついて」

## 災害に備える 有明台小学校区防災合同訓練

6月4日(土)、有明台小学校において今年で2回目となる学校と連携した防災訓練が開催された。児童、教職員、保護者そして地域住民767人が参加。「雨ニテイ号」による降雨体験では豪雨のスイッチが入ると児童は驚いたようすでしたが、めげずにがんばっていました。また、心肺蘇生では心臓マッサージにチャレンジ。

消防官の指導に従い、懸命に取り組み姿が印象的でした。防災大学では「ハイパーレスキュー隊員」から東日本大震災での支援活動の内容と実際の救助法などが児童に紹介され、最後に先生が隊員の防具と装備を着用(10数キロの重さ)。先生はその重さに耐えながら体育館を一周。児童は大喜びでした。

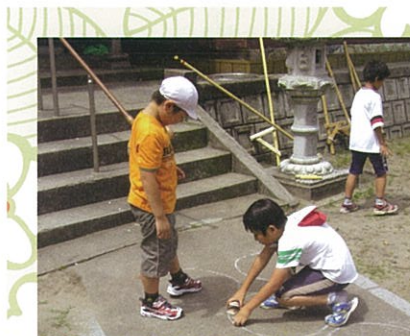
▼1面参照



「心臓マッサージに挑戦」



「Thanks for Coming」



「石けりのまるを書こうよ」



「どれどれ見て上げようか」

## 校区達人の出番 “昔遊び” じゃ



「あやとりはこうするの」



「お手玉はむずかしいな」



「ころばないでネ」



「空気鉄砲はこう飛ばすのじゃ」

## あんなとき、こんなときフォトボックス

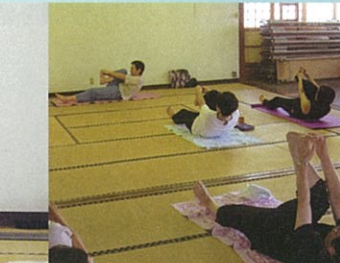
地域が、笑顔が  
つながる、ひろがる



薬師の祭りだ！祭りだ！



「ふれたいこの引き回し」



中央区社会福祉協議会コミュニティ活動推進事業 「インドヨガ教室」 講師 鈴木静子先生



「フルマラソン トップ集団」 関南町交差点

第29回 (10月9日土)  
新潟シティマラソン開催  
参加人数 一〇、〇九四人  
校区ボランティア120人  
ご協力ありがとうございました。



「10キロ、楽しくランニング」 関南町交差点

<p>ります。 全教員が子どもの能力や個性を理解し、いろいろな場面で適切な指導が行いやすくなります。 小規模校は…教職員の配置が少ないために教職員の多忙化が進み、子どもと向き合う時間が少なくなる。</p>	<p>なります。」「全教員が子どもの能力や個性を理解し、いろいろな場面で適切な指導が行いやすくなります。」と「小規模校は…教職員の配置が少ないために教職員の多忙化が進み、子どもと向き合う時間が少なくなる。」が相反することのように感じる。</p>	<p>員の意見などをまとめた一般的な小規模校のメリット、デメリットと理解していただきたいと思います。 小規模校においては、授業や特別活動、行事など実際の指導場面において「目がよく行き届く」や「適切な指導が行いやすい」と言われています。 一方、校内の仕事の分担や関係機関との連絡調整など組織運営上においては、学校の事務的事項は小規模校も大規模校も同程度であり、その結果、小規模校の場合は職員一人にかかる負担が増え、放課後活動や休み時間などで子どもと向き合う時間が少なくなりがちと言われています。</p>
<p>小規模校は…教職員の配置が少ないために教職員の多忙化が進み、子どもと向き合う時間が少なくなる。 小規模校では…授業以外の校務量が増え、子どもと接する時間が少なくなります。 小規模校は、教職員の目が行き届き、温かみのある教育ができます。</p>	<p>小規模校について、多忙化で子どもと接する時間が少ないと言いつつ、一方で教職員の目が子どもに行き届くと書いている。</p>	
<p>すべての小中学校は適正規模であることが望ましいと考えます。</p>	<p>緊急性の高い学校については、具体的な統合案や分離案とともに協議を進める必要がある。 また、必ずしも緊急性が高くない学校については、いたずらに検討・協議をする必要はない。</p>	<p>地域のそれぞれの実状をご存じの通学区域の皆さんと協議を具体的に進めていきます。 また、適正規模でない学校については、一斉に協議を始めるわけではありません。ご意見のとおり、緊急性の高い学校より協議を始めます。</p>
<p>地域の合意のもとに進めます。</p>	<p>教育のあり方まで地域に求めているような内容とも解される。 教育委員会はいたずらに地域に責任と混乱を求めず、その地域の適正配置の考え方を明確にすることが求められる。</p>	<p>学校適正配置は、地域の皆さんにとって大きな影響がありますので行政が強制して行うべきものではありません。地域それぞれの実状をご存じの通学区域の皆さんと、具体的に協議を進めていきます。</p>
<p>緊急性の高い学校から協議を始めます。</p>	<p>多くの課題を抱えている小規模校を差し置いて近接地域では協議を進めにくいことや、統合の相手校となる地域でも統合することによる課題は多いので、緊急性に関係なく、いずれの地域にも教育委員会の考え方を公平に説明すべき。</p>	<p>緊急性の高い学校より協議を始めますが、統合については相手校があることから、ご意見のとおり、当該地区の皆さんだけでなく、隣接校区の皆さんにも状況に応じて説明します。</p>
<p>現在の通学区域(校区)を基本に考えます。 特に合併前の旧町村の地域では、学校を中心とした地域の結びつきが強いものと思いますので、その地域から学校が全くなくなることがないよう方策を含め、地域の皆さんと検討していきます。</p>	<p>新地区については、旧市町村の伝統的区割りを最大限に尊重して欲しい。 (理由) 農村部での統合は、文化・慣習・生活面で地域としてまとまっているものが崩れ、それらが伝承されなくなる危険性がある。</p>	<p>地域コミュニティ協議会など地域のさまざまな活動が校区を単位としていることから、適正配置を進める場合、現在の校区を基本に考えることとしました。 ご意見のように、本市には農村部と都市部、開発による新興住宅地など、地域の状況はさまざまです。地域の現状を踏まえて協議します。</p>
<p>現在の通学区域(校区)を基本に考えます。</p>	<p>「現在の通学区域(校区)を基本に考えます」→「現在の通学区域(校区)については柔軟に見直しを行います」 (理由) 少子化等により校区の見直しは避けられない。現校区による数あわせに終始することなく、50年近く前の区割りを現状に合うよう(町内会を最小の単位とした校区の再編)見直しが必要。 少なくとも現在の通学区域の見直しをタブーとするような記述は変更して欲しい。</p>	

※ この「新潟市立小中学校の適正配置基本方針(案)のパブリックコメントの結果は第8回 中央区自治協議会の委員に提出されました。ご報告申し上げます。(詳しくは、市ホームページ参照)  
有明台小学校も「適正配置」の課題が差し迫った状況です。この課題にどう取り組むか、私たちに突きつけられた難問です。今後も協議を深めていきたいと思っております。(自治協 委員 曾我幹男)

『有小』がなくなる!?

## 新潟市立小中学校の適正配置基本方針(案)の 市民意見募集(パブリックコメント)結果について

平成23年10月 新潟市教育委員会

新潟市教育委員会では、子どもたちにとって公平で良好な教育環境を確保するため、学校の適正配置を進めています。このたび、適正配置を進めるための基本的な考え方となる「新潟市立小中学校の適正配置基本方針」策定にあたり、市民意見募集(パブリックコメント)を行い、その結果を下記のとおりまとめました。

- 1) 募集期間 平成23年8月1日(月)～8月31日(水)
- 2) 提出状況 (1)提出者数 23人 (2)提出件数 45件  
(3)提出方法 窓口 5人 FAX 9人 郵送 4人 電子メール 5人
- 3) 広報手段 ・市報にいがた、ホームページに掲載  
・市政情報室、区役所、出張所、教育事務所、公民館、図書館、教育総務課にて配布及び閲覧  
・新潟市立小学校、中学校、幼稚園に配布
- 4) 寄せられたご意見と市の考え方  
・全体について 10件 ・内容について 30件 ・左記以外 5件



### 〈意見等の概要(抜粋)と市の考え方〉

○全体について(10件)

意見等の概要	市の考え方
適正配置の課題は学校教育や学校運営に止まらず、学校を取り巻く地域に種々の問題を提起するにもかかわらず、基本方針(案)の中に、どの地域がどのように問題を抱え、教育委員会がその地域にどう対処しようとしているのかが明確に示されていない。そのため、課題のある地域なのに問題意識を惹起しない地域が生じる。「新潟市立学校適正配置審議会答申」には、適正でない地域における課題とその対応についての考え方が明確に示されていた。	審議会答申では、平成27年度における児童生徒数推計を基に、各学校を適正規模とする一例を方向性として示しました。しかし、基本方針では、地域の合意のもとに適正配置を進めるものとし、その方向性についても、地域の協議の中で決定していくべきものと考え、個々の地域の方向性については示さないこととしました。 ご意見のとおり、学校適正配置は学校を取り巻く地域の皆さんに大きな影響がありますので、学校適正配置を進めるにあたっては、実状をよくご存じの地域の皆さんと十分協議をしていきたいと考えています。
地域の文化や伝統を守り受け継いで行く面から、多少人数不足になったとしても地区や中学校区に1つは学校を残して欲しい。	教育委員会は、すべての学校が適正規模であることが望ましいと考えますが、地域の総意として学校を残すという方向になった場合は、子どもたちの教育環境ができるだけ良好となるような方策を地域の皆さんと協議させていただきます。
統廃合は避けて通れない問題であり、早急に対処すべき。地域、保護者、先生方の事情は二の次で、子どもたちの事情が一番。子どもたちが切磋琢磨し、互いに高めあえる環境や多くの選択技の中から学校行事や部活動などに取り組める環境をつくるのが最優先。	複式学級のある学校など緊急性の高い学校の教育環境については、早急に対応しなければいけないと考えており、速やかに合意が図られるようさまざまな選択肢や必要な情報を提供していきます。学校適正配置には地域の皆さんの合意が大前提と考えていますが、子どもたちの教育環境を第一にご協議いただきたいと考えます。

○内容について(30件)

素案記述	意見等の概要	市の考え方
1学年1学級になるとクラス替えができない……	クラス替えができないことは、特別な場合を除きデメリットを感じない。	クラス替えにより、人間関係を再構築することができたり、新たな気持ちで進級することができたりします。学校内で環境の変化を作り出し、さまざまな経験ができるよう、クラス替えができることが望ましいと考えます。
子どもの数が少ないため、教職員の目がよく行き届き、個人への指導が行いやすくなる	「子どもの数が少ないため、教職員の目がよく行き届き、個人への指導が行いやすくなる」	ご意見のとおり、一場面では考えられませんが、他都市の資料や教